

町のさらなる飛躍を 新春の集い開催



1月11日、新年を祝う新春の集い（町主催）がジョイ・じよぐらで開催され、145人が、町のさらなる飛躍を誓いました。

集いでは主催者を代表して工藤昇町長が挨拶し、もんじゅのリニューアルやスポーツセンターが完成した昨年を振り返った上で、「平成31年は北海道内では初となる大留のラウンドアバウト交差点の完成や子ども支援センターの建設工事に着手するほか、電源開発株式会社が計画する上ノ国第二風力発電所の建設も始まる。また、国が推進している洋上風力事業の誘致や、吉本興業株式会社とは町の魅力発信に関する包括協定を結ぶ方向で協議を進めている。」と今年の展望を述べた上で、「町民全体の意識を高めながらまちづくりを推進したい。」と今年一年の抱負を述べていました。

来賓として小林檜山振興局長が挨拶したほか、石澤議会議長の発声で祝杯を上げ、参加者はそれぞれに今年1年が実り多き年であることを願っていました。

生命・財産を守るために 消防団出初め式



1月4日、上ノ国町消防団（飛鳥正人団長）の出初め式がスポーツセンターで行われ、消防団員と婦人防火クラブ員95名が参加し、生命と財産を守る決意を新たにしていました。

始めに消防団員らは整然とした姿で入場行進し、町長や消防団長などから観閲を受けました。

続いて永年勤続者に対する表彰伝達が行われたのち、飛鳥消防団長が「一昨年の台風18号や他地域の災害を教訓に、川の増水や道路の灌漑などの災害の際に避難誘導を的確かつ安全に行えるよう、全消防団員を対象とした新たな専門研修を計画している」と式辞を述べたほか、町長などから祝辞が述べられました。

近年、北海道胆振東部地震などの自然災害が相次いでいることから、消防団が果たす役割の重要性や、これまで以上に自助・共助・公助が一体となる必要があるなど、日頃から防災への意識を高めていきたいと思います。

寒さに負けず 空手スポーツ少年団の寒稽古



1月13日、上ノ国町空手スポーツ少年団（納谷敏彦団長）の寒稽古が上ノ国の海岸で行われ、小学生から一般まで21人が今年一年の活躍を誓いました。

この寒稽古は心身を鍛えようと毎年実施しているもので、はじめに全員で、上ノ国八幡宮を参拝し今年一年の無事と必勝を祈願。その後、近くの海岸へ移動し、空手着に裸足と通常の稽古のいでたちで砂浜に立つと、最初「寒い」「冷たい」と叫んでいましたが、いざ稽古が始まると引き締まった表情を見せ、足元が濡れることをいとわず、形や組み手などの稽古に取り組み、今年一年の精進と飛躍を誓っていました。

キャンドルの明かりで彩られる 上ノ国もんじゅ



12月23日、クリスマスを前に幻想的な冬の夜を演出しようと「どうなん・追分シーニックdeナイト」のキャンドルのあかりでつなぐ道「一」の環で道の駅上ノ国もんじゅがキャンドルの灯りで浮かび上がりました。

この取り組みは、地域を訪れる観光客や地域住民の心を癒やす空間を作ろうと道南地域の4会場と同時に実施されたものです。

約150本のペットボトルキャンドルやワックスキャンドルが参加者の手で設置され、一つひとつに炎が灯されると、訪れた約50人は、幻想的な雰囲気の中に酔いしれて、その様子を写真に収めるなどしていました。